学芸大　芋煮＆ＢＱ会を実施

東京学芸大学と国立高等専門学校機構の職員有志は11月13日（日）、国営昭和記念公園（立川市・昭島市）で芋煮＆バーベキュー会を実施した。

この会は、本年4月に国立高等専門学校機構から東京学芸大学へ転任した大槻事務局長の掛け声で企画されたもので、当日は小春日和の好天にも恵まれ、秋が深まった公園内では落葉樹が赤や黄色に紅葉し、参加者45名が紅葉した木々の中で芋煮とバーベキューを楽しんだ。

日頃あまり交流のない機関同士ではあるが、子ども連れで参加する職員もいて、この日ばかりは両機関の職員同士が和気藹々に交流し、充実した昼のひと時となった。

＝お茶の水女子大学＝

若手ＩＴＰ中間評価会議（ドイツ）

お茶の水女子大学では、日本学術振興会採択の若手インターナショナル・トレーニング・プログラム（ＩＴＰ）委託事業「校風をつなぐ女性科学者の育成―第2のマリー・キュリーをめざせ―」が4年目に入っている。11月3日～5日、本事業実施責任者である鷹野景子副学長をはじめとするプログラム担当教職員が、学生の研修留学先であるバーギシェ・ブッパタール大学（ドイツ）を訪れた。本研修は理学専攻の主として修士課程の学生が対象で、英語による専門科目を1セメスター受講するもの。平成20年のプログラム採択以降、累計45名が派遣されている。今回、研修開始1ヶ月後の学生12名の就学・生活状況調査を基に、プログラムの評価及び改善のため現地教職員との会合を開いた。又、両校共同で開催したレセプションでは、研修中の学生及び両大学教職員等関係者らが相互の親睦を深めた。

本研修終了後の学生の中には、留学先のファンドを獲得し研究留学へとステップ・アップしている者もいる。本事業による派遣をきっかけとし、より多くの国際的に活躍する女性科学者の創出が期待される。

研修留学生及び教職員（レセプション会場）

遺伝研「公開講演会２０１１」

国立遺伝学研究所では、11月5日に秋葉原コンベンションホールにおいて国立遺伝学研究所公開講演会２０１１「知りたい！生命科学の最先端」を開催した。小原雄治所長の挨拶の後、同研究所の澤斉教授が「非対称な細胞分裂の不思議」、川上浩一教授が「ゼブラフィッシュが解き明かす脳のはたらき」、井ノ上逸朗教授が「ゲノム医学革命の今」についてそれぞれ講演を行った。

当日は天候にも恵まれ、大学学部生、大学院生および一般市民等が都内を中心に関東近辺から多数の参加があった。参加者は最後まで熱心に聴講し、講演の後には活発な質疑応答があるなど遺伝学への関心の高まりが強く感じられた。

また、講演会終了後には各研究室の紹介および総合研究大学院大学生命科学研究科遺伝学専攻紹介のポスター展示が実施された。